

令和4年度 島根県立横田高等学校 学校評価

<学校運営方針>

奥出雲町唯一の高等学校として、生徒・保護者のニーズおよび地域の期待に応え、地域から信頼される魅力ある学校づくりを推進する。

重点目標	分掌・学年部の目標	目標達成のための具体策	評価指標（アンケート結果） 肯定的評価割合（%）（昨年度→今年度）	自己評価及び改善策	学校関係者（学校評議員）評価・意見
人権教育の推進 思いやりの心の涵養	○人権意識の高揚 ○自他を大切に 心の醸成 ○安全安心な環境づくり	○人権学習LHR・講演会 ○日々の生徒への声かけ ○学年集会 ○情報モラル講演会 ○校内教職員研修	「人権の保障、安全・安心な学校・学級」 生徒（86→90）A 保護者（90→98）A 教職員（87→100）A	○担任を中心に丁寧な個人面談が行われ信頼の醸成が図られた。 ○講演会・研修会等により、人権・同和教育に関する多角的な視点からの検討ができた。 ○教職員間の密接な連携をはかり、さらにきめ細かいセーフティネットを確立する。 ○情報モラルに関する指導、良好な人間関係の築き方に関する助言等、継続的指導を行う。 ○悩みや困りごとの対応について、対話により、生徒・保護者と教員との認識のずれを擦りあわせる。	○基本的生活習慣及び学習習慣確立については低い数値となっているが、これは生徒の理想の高さが表れているという見方もできる。自分で評価を低くしているのは、こうしたらこうなるという理想があるから評価を低くしている。保護者については子どもへの期待が数字として表れているという見方もでき、高いからよい、低いから悪いとは一概に言えない。理想にどのように近づけていけばよいかを考えていく必要がある。 ○奥出雲学についてあまり保護者に様子が伝わっていないということで、保護者側にも責任があるかもしれないが、学校側も情報発信していく必要がある。奥出雲の事で家庭でも親子の会話が始まったり、いろんな情報交換ができるきっかけになると思う。
	○いじめの未然防止・早期発見・解決	○生活アンケート ○いじめ防止対策委員会	「生徒への人権配慮」 教職員（100→100）A	○スクールカウンセラーだけでなく、様々な場面で多くの教職員が生徒に熱心に向き合っている。今後もスクールカウンセラーやインクルーシブ教育担当者、専門機関等との連携を継続していく。	
	○教育相談の充実	○スクールカウンセラーによるカウンセリング ○担任・学年主任・養護教諭等による教育・健康相談	「教育相談の充実」 生徒（84→93）A 保護者（79→90）A 教職員（87→100）A	○服装・頭髪等については、特別な指導を必要とする生徒はいなかった。 ○スマホの利用違反は10件で昨年(17件)より少なかったが、潜在的な利用違反が推測される。利用ルールの徹底を呼びかけ、休憩時間等の巡回などによる利用違反の抑制を図る。 ○スマホの長時間利用による健康被害などについて、学習を深めさせる。	
	○規律ある態度の育成	○生活時間調査 ○服装頭髪検査 ○日々の生徒への声掛け ○学年集会	「ふるまい、身だしなみ」 生徒（95→97）A 保護者（79→93）A	○教職員の評価が高い一方で、生徒・保護者の評価が低くなっている。家庭でのスマホやメディア等の適切な利用について指導していく。 ○各授業で生徒が学ぶ事項が、家庭学習に取り組むための呼び水となる。それに向け、各教員が授業の構成をさらに研究する必要がある。家庭における「調べ学習」を促すような仕掛けづくりを思索し、1、2年生はChromebookを、3年生は家庭用PCやスマートフォンを活用させたい。	
知性や感性の醸成 キャリア教育の推進 地域に貢献できる人材の育成 自己実現の支援	○基本的生活習慣の確立 ○学習習慣の確立	○生活時間調査 ○日々の生徒への声掛け ○担任面談	「計画的日常生活習慣の育成」 教職員（80→89）B 「基本的生活習慣及び学習習慣確立」 生徒（72→71）C 保護者（68→67）D 『平日学習時間目標』 R4(4月) [9月] 【11月】 60分以上 90%以上 (96%) [73%] 【80%】 120分以上 50%以上 (71%) [29%] 【32%】	○生徒の授業への取り組みおよび理解度は、各学年とも肯定的意見が概ね90%以上であり、良好と言える。 ○ICT機器を活用した授業に関しては、1年生は個人端末を活用することが定着しているため肯定的意見が多いが、2・3年生に関しては、その利用環境が不十分であるため肯定的意見は少なめである。各教科での情報教室の活用を促す。 ○習熟度別指導および少人数指導はいずれも1年生で実施しているが、これにより、それぞれの授業において生徒の理解を深めることができている。	○インターンシップを2年生の3月に実施しているがもう少し早い時期に実施出来ないか検討してほしい。同様に三者面談についても現在は3年生で実施しているが2年生の時期に実施し、3年生に入ってからには特に就職を目指す生徒などはすぐに進路に実現に向けて行動できるようにしてほしい。 ○保護者や地域との連携を考えたとき、学校からの情報発信が重要となる。SNSでの発信や配布物、有線放送など、今後もあらゆる方法で情報発信をしてほしい。 ○保護者との連携については評価がBであるが、PTA活動への参加者は少ない。次年度以降も課題である。 ○今年度は小学生対象のオープンハイスクールも2回実施され、参加した子どもは大変喜んでた。子どもの口から横田高校の話を保護者が聞くと、それを他の保護者に伝えることになる。参加人数は少なかったようであるが、今後も継続してほしい。
	○学力向上・基礎基本の徹底 ○思考力・判断力・表現力の育成	○授業評価アンケート	「授業への生徒の取り組み」 生徒（90→94）A 「授業の充実度」 生徒（82→87）B 保護者（78→90）A 「教員の学力伸長力」 教職員（83→85）B <生徒による授業評価R4.7実施> 「生徒自身の学習への主体的な取り組み」 (93) A	○学年末試験前に「おくまな」の利用が増加したのは良い傾向と捉えている。自主的な学習の場の保証はもちろん重要であるが、生徒が自主的に学びに向かうための仕掛けは各方面で検討すべき重要課題の一つである。	
	○自主的な学習の機会の創出	○自主学習スペース「おくまな」	「教員の授業の進め方」 (93→92) A	○奥出雲学も軌道に乗り、地域を題材にした学習は広がっている（生徒・保護者ともに90%以上の評価）。総探での探究的な学びが教科での探究的な学びに波及するためには、総探のブラッシュアップならびに各教科で探究的な学びが充実した実践になるための教員研修が必要である。	
	○「総合的な探究の時間」の充実 ○地域活動の充実	○「奥出雲学」 ・探究スキル学習 ・地域課題解決研究 ・ICTによる探究学習支援 ○ボランティア活動	「地域の魅力・課題の理解」 生徒（75→90）A 「自発的な学習と協働」 生徒（83→94）A 「主体的姿勢の育成」 教職員（73→96）A	○概ね目標を達成と考える。生徒の進路について、全教員周知のもと指導を行う体制をつくる。 ○模試成績報告・分析を行い、共通テスト・新課程入試対応策を各教科で検討する。 ○課題研究が入試に活用できるよう指導する。	
	○就職指導の充実・職業観の育成 ○進学指導の充実	○就職・進学の面接指導 ○放課後の進学補習 ○土曜講座 ○模擬試験の効果的利用 ○共通テスト研究	「進路指導の充実」 生徒（86→96）A 保護者（85→97）A 教職員（97→93）A 「進路について考えたか」 生徒（92→94）A (1年83→90、2年94→92、3年99→100)	○限られた予算で特別教室棟各教室のLED工事や木製建具のアルミサッシ化などリフレッシュ改善を行うことができた。引き続き事故なく安全な施設設備の維持管理に努める。	
	○環境整備の推進	○効率的な予算執行	「施設設備の充実」 教職員（83→93）A		

地域から信頼され期待される学校づくりのための情報発信・情報交換	○情報発信の迅速化	○HP等の充実	保護者 (60→85) B	○魅力化推進部と連携しながら、迅速な情報発信が出来た。引き続き、魅力化推進部を中心に校内の各分掌や、各部活動と連携して、ホームページ等でのタイムリーに情報発信に努めたい。	○先日新聞に投稿されていた3年生6名の作文を読んだ。先生方の努力で生徒のみなさんもそれぞれ目標をもってそれに向かっていく子どもがたくさん育っていることを心強く思った。
	○保護者や地域との連携の推進	○PTA活動	「保護者との連携」 保護者 (77→86) B	○PTA活動を通して、保護者との連携が図られた。さらに、多くの保護者の方が、学校の活動に参加出来るよう、PTAと協力しながら連携の仕方を考える。	
	○中学生へのアピール	○オープンハイスクール		○オープンハイスクールは、中学校との日程調整を事前に行い、PRも十分にできた。次年度の内容については、今以上に充実するように、校内で検討する。	
	○迅速で丁寧な接遇	○来校者及び電話対応		○保護者や地域の方々から特に指摘は頂かなかったが、今後も窓口となる事務室はもちろん、全教職員が迅速で丁寧な接遇に心がける。	
	○「入学してよかった」という思いの涵養	全ての教育活動	生徒 (86→92) A 保護者 (93→94) A 教職員 (77→100) A	○令和5年度から本格的に始動するコンソーシアム2.0の充実を図ったり、学校運営協議会からの助言をいただきながら、魅力ある学校作りを更に推進していく。	

凡例 アンケートの評価 A:目標達成 (肯定的割合90%以上) B:目標ほぼ達成 (80%~89%) C:目標達成までもう一歩 (70%~79%) D:目標達成に至らず (69%以下)